

# 【取組 1 3】産学官が連携した復興に向けた取り組みの推進

(プラン記載箇所：57ページ)


## ＜目指す姿＞

- ◆ 震災からの復興を県全体の活性化に繋げていくため、「**産学官石川復興プロジェクト会議**」を開催し、産学官が連携して**創造的復興の象徴となる各種プロジェクトを推進**する。

プラン掲載の取組 (別冊の掲載ページ)	内容	短期 (～R7末)		中期 (～R10末)			長期 (～R14末)			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
① 産学官石川復興プロジェクト会議 【企画振興部】	<p>産学官の英知を結集し、復興の象徴となる各種プロジェクトの具体化に取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議のメンバー (R6.12月現在) <ul style="list-style-type: none"> <li>飛田 秀一 北國新聞社 名誉会長</li> <li>杖村 修司 北國フィナンシャルホールディングス 代表取締役社長</li> <li>松田 光司 北陸電力 代表取締役社長 社長執行役員</li> <li>和田 隆志 金沢大学 学長</li> <li>秋山 稔 金沢学院大学 学長</li> <li>馳 浩 石川県知事</li> </ul> </li> <li>● 復興の象徴となる各種プロジェクト <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人の交流・関係人口の創出 (能登駅伝の復活、いしかわサテライトキャンパスの拡充 等)</li> <li>2 特色ある生業の再建 (輪島塗や酒蔵の復興の取組、奥能登塩田村の継承の取組 等)</li> <li>3 豊かな自然環境を活用した魅力の向上 (能登半島のジオパーク認定を目指す取組、デジタル技術を活用した見附島等のバーチャル復元、のとSDGsトレイルの整備・活用 等)</li> <li>4 能登を実証の場とした先端的取組の推進 (道の駅等における災害時のオフグリッド化の取組、観光DXの推進、研究機関の誘致 等)</li> </ol> </li> </ul>									

「産学官石川復興プロジェクト会議」の開催及び各種プロジェクトの推進

- 12/25 第1回産学官石川復興プロジェクト会議の開催

現在の状況	今後の進め方
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「<del>産学官石川復興プロジェクト会議</del>」を発足(R6.12)し、第1回会議では、それぞれに展開する事業を提案するなど、県全体の活性化につなげる方針を確認した。</li> <li>・県が予算計上した取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>● 能登駅伝の復活(R7当初) 【文化観光スポーツ部】(80ページ)</li> <li>● いしかわサテライトキャンパスの充実(R7当初) 【企画振興部】(14ページ) &lt;再掲&gt;</li> <li>● 輪島塗若手人材の養成施設創設(R7当初) 【文化観光スポーツ部・商工労働部】(58ページ)</li> <li>● のとSDGsトレイルの創設(R7当初) 【生活環境部】(104ページ) &lt;再掲&gt;</li> </ul> </li> <li>・公募によりシンボルマークを決定するとともに、「支える、つなげる、能登のみらい」をキャッチフレーズに選定</li> </ul>  <p>～支える、つなげる、能登のみらい～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、産学官が連携し、復興の象徴となる各種プロジェクトの具体化に取り組んでいく。</li> </ul>

関連する指標 (R7.12末時点)	発災直後	R6.12末時点	現 状	目 標
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">現時点で関連指標なし</div>				